

# 団体名：NPO 白浜レスキューネットワーク(拠点団体)

代表者名：藤藪庸一

ボランティアスタッフ数…7,8名

施設配布先：地方自治体、共同作業所、グループホーム、デイサービス

活動地域：白浜町、田辺市、上富田町

住所：和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8 TEL：073-943-8981

## 事業概要

白浜バプテスト基督教会を母体とし、和歌山県西牟婁郡白浜町にある三段壁において自殺防止活動を行なう。

最近では自殺予防活動にも力を入れ、教育・啓発活動に重きを置いている。

生活保護手前の方への保護施設の運営及び現物支給による支援の仕組みを行政と連携して行う。加えて、活動資金と就労支援の場を作るために弁当屋を始めた。

## ポイント

【お弁当事業】注 現在のところ2hjからの食品を使用していない。

近隣の公的機関（警察、学校、行政）や単身高齢者向けに、毎月約2000個（1個=500円）配食をし、売上100万円を上げ、純利益2,3万円を出している。

⇒各入所者の少額賃金だが雇用の場、中間的就労の場、地域と関わる場となり、次のステップにもつながりやすくなる。

⇒町の福祉係と広報協力をし、新規の受注の営業もかけて、配食の個数を増やし、雇用の場を増やすのと同時に、販売価格を抑えられるように考えている。

【地元行政との連携】

白浜町と連携をし、生活保護申請者には、審査・検討まで教会に来訪してもらい現物支給でつなぐのと同時に、生活相談もする。

⇒役場に置くだけだと、その個人との関係性が希薄になるので敢えて取りに来てもらう。

## 取り組みの経緯

2HJの配島が2010年に藤藪氏の講演会で接点をもつ。当時、施設運営の食費だけで10万円以上がかかっていた。すぐに2hjからの食品提供を開始した。当初から近隣施設への提供をおこない、地域の福祉を担う存在であった。

タイトル、小見出し：MS ゴシック 16 ポイント

文章：MS 明朝 10 ポイント、英数字 century 10 ポイント

## 活動方針

### 【生活保護受給に適切対処】

施設入所者には、生活保護を受給せずに、あくまでも生活支援の基盤作りをしっかりとし、就労に向けて取り組んでいる。施設内では、節度ある雰囲気作りをし、金銭管理や食事のマナー、生活習慣などの規範については厳しくしている。

### 【活動の適切な規模感】

助成金を申請すれば、規模感は増やせ活動は広がるが、その場凌ぎになってしまう可能性を懸念。資金繰りのための継続事業が必要で、小さい規模の配食サービスを行なっている。

## 活動事例

### 【自殺保護者対応】

三段壁での保護者：103人（2011年） 内 生活保護受給者：30人  
自殺理由：自己有用感のなさ、孤独が主な点。一日中テレビ見ているだけ、仕事見つからない、一人であまり生きることがわからない状態が続くと自己嫌悪や自己喪失感に陥り、自殺にやむを得ず、陥ってしまうケースがある。

### 【行政の地震対策】

東南海沖大地震が万が一起きた際、観光シーズンにおいては、多数の観光客が存在する。避難経路、避難場所、防災備蓄品量を検討中だが、まだ具体化されていない状況である。

### 【行政自体の事例】

上富田町：生活保護相談者に対して、年間予算30万円がある。現物給付を町長決裁し、社協窓口へ繋ぎ緊急の対応をしている。当事者へ、必要な物資を即時判断し購入、提供することで、2006年から生活保護世帯増加がなく総数は横ばいの状況

⇒相談数は、年間約10件程度

## 提携食品企業

セカンドハーベスト・ジャパンより、数ヶ月に1度主に防災備蓄品を直送

## 成果と課題

### 【弁当事業の発展性】

運転資金を弁当事業で稼ぎ、生活困窮者向けに弁当の無料配布をしたい。今後、フードバンク食品をの活用したコミュニティーレストランなどを検討。

### 【定期的な小口の食糧確保】

定期的で一定量（レトルト食品、数十箱程度の防災備蓄品）の食料備蓄が必要  
⇒年間を通じて、生活困窮者や自殺志願者の保護者に向けた食料が望まれる。